

2015年6月8日

四国電力株式会社 様

未来を考える脱原発四電株主会  
共同代表 本田耕一  
徳島県徳島市川内町鶴島 120-1  
090-9455-2963

## 第91回四電株主総会事前質問書

### 記

別紙質問書について総会においてご回答を願います。

- 1 現在、原子力発電所は停止しています。たしか、昨年の株主総会で原発再稼働がなければ、経営は赤字、と言っていたと思います。しかし、今年は黒字です。もちろん、さまざまな経営努力があったからこそ黒字になったのだと評価しますが、従来から言われている、「原発が止まっているから赤字」の主張は通らないと思います。原発がなくても十分にやっていけるのではないのですか？むしろ、ひとたび事故がおこれば、一企業が責任をとることなどできないと、福島で証明されたと思います。原発という大きなリスクを抱えるのをやめようとは考えていないのでしょうか？
- 2 伊方原発から排出される、核廃棄物処理について、これまで、どこでどのように処理していますか？核廃棄物処理については、世界的にも問題になっています。原発は「トイレのないマンション」と比喻されているように、出すだけ出して、行き先がない状況ではないのでしょうか。企業として、後世に負の遺産を残すような事業をする

ことは、道義的に許されるとお考えですか？

- 3 災害時にいつも取り残されるのは、「社会的弱者」とも言われる、障害者、高齢者、子供、女性などです。

福島原発の事故において、正しい情報が得られず、どこへ逃げていいのか、どうすればいいのかも分からないまま、多くの方が逃げまどいました。そして、4年以上たった今でも、多くの方が自分の故郷を離れ過酷な避難生活を送っています。また、福島県に限らず、関東や東北一帯から自主避難されている方も多くいます。元の生活を取り戻すことはあまりにも大変な状況です。また、避難したくても、介護や仕事などの問題で、不安を抱えながら地元に残る方も多くいます。

福島のこどもの保養キャンプが全国各地で開催されていますが、どれも申込みが多いそうです。それだけ、多くの方が不安を抱えて過ごしているということです。屋外で自由に遊べないストレスや、将来への不安など、想像以上の苦しみを抱えています。このような状況を見て、どうして原発再稼働なんて、言えるのでしょうか。福島事故の原因もまだ明らかではありません。ましてや、収束さえしていないのです。今日本で本当に起こっていることを真摯に受け止めていますか？ 本当は原発は無いほうがいい、と思っていないですか？

- 4 「地元の同意を得られたら再稼働」などと言われますが、どこが地元ですか？

福島での事故では、広く放射能が飛び散りました。たとえ伊方町がいいといっても、それでは通らないということは明らかです。九州、中国、四国とも汚染地域になるでしょう。いや、規模によっては西日本すべて、または日本全土が被災地になると思いませんか？どうか、再稼働など軽々しく言わないでください。安全審査に通ったからと言って、慢心せず、「世界一緩い安全審査」と考えられませんか？

- 5 原発労働者について

原子力発電所の中で働く労働者の方は、どのくらいの割合で正社員、非正規ですか？

また、実際に被曝の恐れのある作業に従事する方々の健康チェックなどはどのようにしていますか？また、その仕事（作業）につく労働者への安全マニュアルなどはどうなっていますか？

原発は事故がなくてもそこで働く方々の被曝があります。誰かが犠牲にならなければ電力が供給できないような仕組みはそもそも間違っていると思いませんか？

- 6 2011年の福島事故以降、福島へ足を運ばれていますか？また、チェルノブイリなどにも行っていますか？「事故に学ぶ」ことをしていますか。住民の方、被災者の方に接していますか？町を見えていますか？現状を見えていますか？

- 7 現在日本は、福島第一原子力発電所事故による「原子力緊急事態宣言」下にありません(2011年3月11日19:03発令)。原子力発電所の安全確保のために、まずは、福島第一原子力発電所事故の検証を進めることが大前提だと考えますが、同意していただけますか。

- 8 住民の安全・安心のためには、事故発生時の適切な情報発信や住民避難の仕組みを整備する必要があります。事故の発生を隠さず、すみやかに情報拡散するための仕組みを教えてください。また伊方原発より西の住民は海路でしか避難できませんので、全住民をただちに避難させられる数の船舶を四電は準備しているのでしょうか。

- 9 安定ヨウ素剤の配布について。事故が起き、屋内退避指示が出た場合、誰がどのように配布するか手順が決まっていますが、役所の職員に安定ヨウ素剤の配布をさせるつもりですか。被曝を覚悟で四電社員を配布要員として派遣する覚悟がありますか。
- 10 福島原発事故発災時の東電のビデオ会議をご覧になって、誰もが感じたことだと考えますが、原子力防災訓練は日常的に行うことが必要ではないでしょうか。社長をはじめとする四電重役は、原発部門の社員と同等の原発設備の詳細な仕組みを知っておかなければならず、そのうえで、それらの用語をよどみなく言葉に載せられることが必要です。日頃から口に出して慣れておかななくては、緊急時には微細なミスコミュニケーションのせいで事態収束が阻まれることが考えられます。社長をはじめ上部の方々が自ら、現場との直接会話を日常業務に取り入れること、かつ、少なくとも、毎月一度は伊方原発を訪れることをお願いしたいのですが、実行できませんか？
- 11 使用済核燃料の密閉された燃料棒の内部は高圧で、核反応で生成された多種多様な放射性物質やガスが閉じこめられています。この燃料棒にピンホールが開くと、一気に放射性ガスが大気に漏れ出します。使用済核燃料を密閉されてない、開放型プールに保存しておくことが安全だとお考えになりますか。また、核燃料の再処理過程で燃料棒を開封しなければなりません。放射性ガスを処理する技術が存在しないために、総てのガスを再処理工場の排気塔から大気中に放出し、大気で希釈できるから安全だという論理で事業を進めているというのは本当ですか。原子力元年以前の大气と比較して、放射性ガスのクリプトンが大気中から1000倍多く検出されているということをご存知ですか。
- 12 伊方原発から瀬戸内海に年間に放流するトリチウムが2001年からの10年間に552兆Bqという膨大な量（原子力施設運転管理年報23年度版）になっています。このことの原因について、伊方原発で使用されるホウ酸の量が特に多いせいではないかと言われております。そこで伊方原発稼働時のホウ酸の年間使用量をお答え下さい。またホウ酸を投入すると冷却水が酸性になり、燃料棒にピンホールが発生しやすくなるのではないのでしょうか。酸性を中和する必要があると考えられますが、中和剤には何を加えているかをお答え下さい。
- 13 伊方3号機の再稼働について（佐伯勇人新社長に質問）  
福島事故以降、当社も政府も、原発の再稼働なくしては電力不足になると言っていました。私も原発は「必要悪かな」と思っていました。でも、「今夏需給見通し猛暑でも供給確保」（四国新聞2015年4月17日）の記事を見て、安心しました。「四電4年ぶり黒字 3年ぶり復配20円」（同5月1日）も出来て、株主の一人として嬉しく思ったのですが、同じ記事に佐伯勇人新社長が「一日も早い（原発の）運転再開に意欲を見せた」とあるのを見て、たいへん失望しました。これでは「守りの意識を捨てチャレンジャーとして攻めの姿勢を前面に打ち出す」のではなく、従来の「原発再稼働」とまったく同じではないのでしょうか。「攻めの姿勢」の経営方針を具体的にお答え下さい。
- 14 伊方3号機の再稼働について（井原理代社外取締役）に質問  
昨年の総会での井原理代氏の取締役就任に、私は大歓迎した一人でした。千葉昭社長（当時）と同じように「総合的な判断。女性の感性を経営に反映していきたい」（産経香川版2014年6月27日）と私も大いに期待しました。経営努力もあり、

電力不足の心配もなく幸い黒字、復配も実現しました。私はこれで十分だと思います。「すべての子どもたちが健やかに、のびやかに育てほしい」（「あいさつ 香川県児童・青少年健全育成事業団 井原理代理事長」『四国新聞2015年4月29日』）と願う井原さんは、それでも、取締役会で原発再稼働に賛成されたのでしょうか。それとも、反対されたのでしょうか。住民の過半数が原発再稼働に不安を抱いている現実を踏まえてお答え下さい。

15 被害補償金額

炉心溶融という福島第一原発級の事故が発生した場合のすべての被害補償金額の積算とその経営への影響を具体的に教えて下さい。

16 定期的な勉強会の開催

四国電力の未来を担う若い（若くなくてもよいが）社員のみなさんと一般株主や住民有志とで、電力自由化後の電力会社の在り方や、新しい運営方法等、ともに勉強する場が定期的に持てれば「素敵だな」と思いますが、協力頂けますか。これこそ「お客さまと共に」（よんでんグループ行動憲章）の実現だと思いますが、お答え下さい。

17 伊方発電所見学のおしおりの動画を見させていただきました。屋外編のところ、航空機の激突により格納容器が破損した場合でも、大型放水砲と大型ポンプ車で冷やせば大丈夫等云々の説明があるのですが、素人目にもそれは無理があるのでは！と思いました。そのようなことが起こった場合、本当にそのような作業で安全性は保たれるのでしょうか？

18 愛媛県広域避難計画ではUPZ（緊急防護措置計画範囲）避難のルートとして特に、原発より西側に住む住民の避難経路として航路が挙げられているのですが、地震や津波等の災害時にとても船で避難出来るとは考えられません。四国電力さんはこの避難計画をどう思いますか？

19 福島第一原子力発電所の事故では、汚染水が大量に排出され、なんとか敷地内に汚水タンクを設置できていた状況は記憶に新しいところですが、伊方発電所で同様の事故が起こり、汚染水が大量に排出されるような事態になった場合に、86万m<sup>2</sup>と敷地面積も狭く（福島第一発電所は350万m<sup>2</sup>で福島の約1/4の敷地）、しかも敷地のうち平地が約4割しかないという状況で、汚染水のタンク等の作業ヤードをどうやって確保するか考えられているのでしょうか？